

総合文学研究ⅢA（言語学の方法）

授業内容

この授業では、Noam Chomsky（ノーム・チョムスキー）の *Aspects of the Theory of Syntax*（『文法理論の諸相』（以下、『諸相』））の第一章"Methodological Preliminaries"（「方法論的序説」）をテキストとして、言語について理解を深めることを目的とします。

『諸相』の第一章では、それまでの哲学者（デカルト、ライプニッツ、ロック、カドワース、フンボルトなど）や文学者の言語観、ポート・ロワイヤル文法での言語観、伝統文法での言語観、（ツシュール・ブルームフィールドなどの）構造主義言語学での言語観などについて詳しく述べた上で、生成文法での言語観へと議論が進んでいます。さらには、言語習得（生得論と経験論の違い）や言語理解などについての記述もあります。『諸相』は今から40年以上前に書かれたものですが、その内容が明確でしかも示唆に富んでいることが、その後の言語研究を飛躍的に発展させた一因と言われるほどの言語学の歴史上金字塔的な著作であり、現在でもその価値は依然として高いと言えます。

上記のように、『諸相』第一章の内容は一般的な言語学の方法論に関することですので、理論言語学の技術的細部に関する議論はあまりありません。日本語学（国語学）・英語学・フランス語学・ドイツ語学など、言語研究に従事している方はもちろんのこと、文学研究を専門としながらも言語について興味のある方も十分対応できるように授業を進めていく予定です。

授業予定

1. はじめに
2. 序文・50周年記念版への序文・岩波文庫への序文
3. 言語能力の理論としての生成文法
4. 言語運用の理論を目指して
5. 生成文法の構成
6. 文法の正当化
7. 形式的普遍性と実質的普遍性
8. 記述理論および説明理論についての補説
9. 評価手続きについて
10. 言語理論と言語学習
11. 生成力とその言語学的意義
12. 訳者あとがき(1)
13. 訳者あとがき(2)
14. まとめ

履修上の注意

特になし

教科書

ノーム・チョムスキー（福井直樹・辻子美保子訳）『統語理論の諸相 - 方法論序説 - 』岩波文庫、2017

参考書

成績評価の方法

授業への参加とクラスでの発表50%、期末レポート50%